

第16回「県政ひざづめ談議」結果概要

開催日時：平成20年1月16日 14:40～

開催場所：山梨県立大学

[司会]

ただいまから、知事対話「県政ひざづめ談議」を始めさせていただきます。

本日の進行を務めます県の広聴広報課長、田中と申します。よろしくお願いたします。

まず、はじめに横内知事からごあいさつを申し上げます。

[知事]

皆さんこんにちは。それぞれ授業で、勉強でお忙しいだろうと思いますが、そういう中、この「県政ひざづめ談議」に出ていただきましてありがとうございます。

これはざっくばらんに皆さんと私、知事が意見交換をするという会でありますから、知事の前だからこんなことを言っちゃいかんとか、そういうことは余り考えないで、日頃思っていることを率直にお話をいただきたいというふうに思います。

県立大学の国際政策学部の皆様がよつびし総研というのを作って甲府の街の中心に拠点を構えて、イベント企画とか町おこしのために大変努力をいただいているというふうに聞いております。

よつびし総研というのは武田菱が四菱だからよつびしということを知っていますが、大変に評判が良く甲府中心街の商店の皆さんも、皆さんに本当に期待をしているわけで、私どもも嬉しく思っているわけです。

今日はそんな話とか、いずれにしても若い県立大学の学生さんだけではなく、これから山梨大学とか山梨学院大学の皆さんにお願いをしたいと思っているんですけど、是非皆さん方の若い力をこの山梨の活性化、地域づくりのためにおいに使っていただければ、力を貸していただければありがたいと思っております。

山梨の地域づくりについてどうしたらいいのか、そういう点が今日の一つのテーマ。

それからもう一つは、山梨というのは中々外から来た若い人が余り居着かないんですよ。だから例えば山梨の企業で人を外から採用しましてね、来てもらっても、中々居着かない。2、3年するとまた帰ってしまうというようなことがあります。どうも若い人にとってこの山梨という地域が余り魅力がないんじゃないかというふうなことを言う人が多いんですね。

そういう意味で二つ目のテーマとしては、この若い人に魅力のある山梨にするにはどうしたらいいのか、若い人にとってどういう点が魅力に欠けているのか。そんなことを皆さんのご意見を聞かせてもらえればありがたいと思います。

そういうことに限らず、どんなことでも結構ですから日頃考えること、県政に関連して何か気が付いたことがあれば遠慮なくおっしゃっていただきたいというふうに思います。今日はそんなことで1時間ぐらいの短い時間ですけども、ざっくばらんに率直な意見交換をしていただきたいと思いますので、よろしくお願いたします。

[司会]

本日の意見交換に参加いたします県の職員を紹介させていただきます。

まず、県の知事政策室で今後県が重点的に取り組む施策それから事業などの計画づくりを担当しております小林政策参事であります。

それから県の商工労働部で商店街、それから商業の振興、それから中心市街地の活性化などを担当しております深沢商業振興金融課長です。

本日は町づくり活動を行っております、それからまた関心をお持ちであります県立大学の学生の皆さんと「魅力ある山梨を模索する」 - 知事と学生によるブレーン・ストーミング - と題しまして意見交換をおこないます。皆様方、若い人にとりまして、魅力ある山梨、それから卒業後も住みたくなるような山梨とはどんなものか、どんな姿かと。またそのために何が必要か、そういう観点で参加者全員で話し合いを進めていきたいと思っております。思うところを自由に、活発に発言していただきたいと思えます。

それではご発言をお願いいたします。

[参加者]

私は元よつびし総研代表です。

今回、私たち街づくりよつびし総研ということで話をいただいたんですけども、やはり街づくりっているんな要素があって、教育だったりだとか福祉だったりだとか、あとは子育てとか、色々多文化共生とかあるんですけど、よつびし総研だけじゃなくっているんな実は活動をしている学生が県立大学にはいます。

国際政策学部の中でIVCという、こちらにいる3名がそうなんですけれども、主に外国籍の児童に日本語を教える教室にボランティアに行ったりとか、そういうことをしている方々です。

こちらにいる3名がお話クラブという、これは実は県立大学の前の県立女子短期大学からあるサークルなんですけれども、こちらの学生が保育園だったりだとか、あとは環境センターだったりとか、そういうところに行って色々劇だとかお話の読み聞かせだとか、そういうのをやっています。

後ろにいる3名が福祉コミュニティー学科です。

そしてこちらにいる、スーツで今回気合いが入っている方々が看護の学生です。一応紹介はこれまでです。

僕は、よつびし総研で中心市街地ということでフィールドをもって活動をしているので、一応、横内知事とか、県の方針だとか、そういうのをインターネットだとか、話だとか聞いたりもしているんですけども、やはり何かちょっと何とかな、例えば大型郊外店ができたから中心街が衰退してしまうとか、あとは県都だからやっぱりイメージアップだとか、県の方々が考えていることは多いと思うんですけども、僕はそれじゃあちょっと何か悲しいなとか、何か弱いなとかを思っています。

まず誰に中心市街地に住んでもらうということが大事だと思っていて、やはりお年寄りだとか子育て世代にとって便利で安心した住みたい町にすることが重要だと思ってい

ます。

既存の病院、図書館、公園、医療や教育機関とかが、一応山梨県内の中では充実しているとは思いますが、そういう施設だとか交通機関が、まだまだ不便な部分があるので、そういう所を整備して、そうすれば中心市街地だけじゃなくて、中心市街地の外の人にもメリットがあるんじゃないかと僕は思っていて、やはり中心市街地活性化に対して山梨県というのはやっぱり全体を見なければいけないんです。

[知事]

そうですね。確かに住み良いまちであることが大前提だというふうに思いますし、そもそも中心市街地というのは住みやすいんですよ、歩いて暮らせる町づくりなんていうことを言いますけれども。

本当にヒューマンスケールでどこを歩いたってちょっと行けばすぐ病院があり、買い物もできるということで、住みやすいんですよ、中心市街地というのはね。

そういうものが見直されて、最近は甲府にもずいぶんマンションが建つようになりましてけれども、いわゆる都心住みたいなものを新しい形で全国どこでも興ってきていますね、それを更に住みやすい町にしていけば都心に自ずから人口が戻ってくる、戻ってくると活性化するということは当然あると思いますね。だからそれは一つの方向として、実際のところマンションなんかどんどんどんどん造らしたらいいんだろうと思っているんですよ。それは一つの方向だと思いますよね。

昭和町に大型のショッピングセンターが、これはイオングループなんですけれども、ばかでかいものができるということもありまして、それを私はストップして売場面積を大幅に削減してもらったんです。

これに対してはずいぶん反対がありましてね、地元の地権者の皆さんも反対なんですけれども、皆さんのような若い人たちが県のホームページを見てずいぶん反対を言うてくるんですよ。やっぱり中心街には魅力がないからであって、中心街を守るために郊外のショッピングセンターを規制するのはおかしいとか、そんなことをすればますます山梨の魅力がなくなっちゃうよという声がありましたね。

にも係らず私が規制をしたのは、やっぱりイオンのような大資本による、極めて大規模なショッピングセンターができる、2年ぐらい、1年半ぐらいでどーんとすごいのができちゃうんですね。甲府の中心市街地と同じぐらいのやつができちゃう、そうするといくらこの中心市街地を活性化しようとしても、やっぱり10年ぐらいの単位で時間がかかるわけです。時間的にとてもじゃないです、時間と資本力で間に合わないんですよ。

例えば極端に言うと岡島とか、それから山交という百貨店がつぶれると、木更津でそういうことがありましたけれども百貨店がいったんつぶれると、回りにあるいろんな飲み屋さんとか、そういうものも一挙におかしくなるんですよ。そういうことがあって、そういう大規模なものができる甲府市に対する悪影響というのが一挙に及んでくるわけだから、そこがやっぱり影響がそんなにでかかない程度に押さえないかんということでやったんですけれどもね。これについてはいろんな意見があると思います。

それともう一つは交通渋滞があつた周辺でものすごく起こってくるんですよ。それはやっぱりちょっとうまくないじゃないかという二つの理由があつて、この店舗を減らしても

らったわけなんですね。

これについては色々ご意見があると思います。いずれにしても中心市街地を活性化していくためには、まず住み良い町でなければならない、教育だとか医療だとか、そういうものが整っていれば、中心市街地というのは住み良いから自ら人が集まってくる。集まってくればますますいろんなものが集積をして活性化をしていくというというプラスの循環、そういうものをつくっていくことが大事だということは私もあなたと同じ意見ですね。

[参加者]

僕自身、もうちょっと具体的に欲しいかなというか、僕は例えばだれを対象かといったらやっぱりお年寄り、子育ての世代がやっぱり便利で暮らしやすいという、その辺がもっと具体的にないとやはり甲府市の今の計画もそうなんですけれども、やっぱり何というか、軸がないというか、コンセプトが全くないという、とって合わせたような感じの計画になってしまっていると思うんです。

[知事]

今作りつつある中心市街地活性化計画というのがあるけれども、もっとおもしろくてもいいんじゃないかという感じはありますね。

やっぱりお年寄りももちろんだけれども、若い人たちが集まるような、若いご夫婦が乳母車ひいて、日曜には歩いているような、そんなような町であってほしいですね。

[参加者]

新しくよつびし総研代表となりました。よろしくお願いします。

先ほど今の知事のお話の中で、マンションをどんどん作ったらいいとおっしゃいましたがけれども、僕はそうは思わないんですね。

私たちの活動の中で、今フットパスといいまして、中心街と一般市民の方を対象にガイドして回っているんですけども、その中で舞鶴城公園にも行っているんですけども、舞鶴城公園から見ると北側に大きなマンションがあります、あれがとても景観を壊しているなと思うんですね。

そこらじゅうにマンションが建っていますけれども、実際それは6割ぐらいしか入ってなくて、ほとんど売れ残っているのが現状なんですけれども、それなのにどんどんマンションを造ったらいいというのは僕は景観が悪くなる一方だし、入る人はいないし、入るための仕組みを作ってからマンションを造るんだったら分かるんですけども、ただ大きなものをどんどん造って、それで造ったらさあ人は来るか、それは来ないと思うんですね。

あとは空き店舗がたくさんあるんで、そこをどうにか居住施設にできないかなというふうに考えていまして、空き店舗を改装なり、ちょっと手を加えて住めるようにできないかなと思うんですね。お年寄りにとっては住みやすいんじゃないのかなと思うんですね、近くにお店はありますし。

だからマンションを建てて、山が見えなくなったりする、富士山が見えなくなったりするというのは、逆に甲府にとってデメリットではないのかなと僕は考えたんです。

[知事]

確かに一定の景観だとか美観という観点からの規制は考えなければいけませんよね、都市計画でね。何でもばらばら建っていいというもんじゃないから、一定の、例えばお城の高さとの関係である高さ制限をするとか、そういうことはやっぱり景観対策としては必要なことだと思いますね。

やっぱり町が活性化するというのは、そこに人が住むことだと思いますよね。だからマンションでもいいし、あるいは老人ホームみたいなものでもいいんですけども、そういった空きスペースがあれば、もちろん人が住めば、売れるマンションでなければ造るわけではないわけですけども、人が住むことが肝心だというふうに思いますよね。

それからもう一つは、あなたは空き店舗を住宅に変えたらどうだという話があったけれども、やっぱり中心市街地の活性化というものの一番の制約というのは、大体甲府の町もそうですけど、みんな古い歴史のある商店で、お年寄りご夫婦二人が経営をしていて、だからもう全然新しいものをやろうという気持ちはないんです。それぞれみんな裏には駐車場を持っていたり、あるいはアパートを持っていたりして、生活にちっとも困っていない。だから惰性でお店をそのまま経営していると。

じゃあそんなものは閉めてむしろ若い商業をやろうとする若い人というのは大勢いるわけですから、家賃をうんと安くして、例えば甲府の中心街だって地価は下がる所は半分以下に下がっていますよね、もっと下がっているんでしょう。その分だけでも家賃を半分なら半分に下げてくださいね、そうすれば若い商業をやろうとする若い人たちはどんどん入ってくるわけですよ。

ところが家賃がそれだけ下がっているかということ、多分ピークの7割ぐらいにしか下がっていないんじゃないでしょうかね。だから一番いいのは、やっぱり中心のそういうその空き店舗みたいなものの持ち主が家賃を地価に相応するだけでも安く下げて出せば、若い商業主というのはどんどん入ってくるわけですよ。それができないところが中心市街地の活性化の一番の制約だろうと思いますね。その点皆さんどう思いますか。

[参加者]

どうしても空き店舗など家賃下がらないという場合でしたら、どこだったか、ちょっと記憶は定かではないんですけども、街づくり会社みたいなものを作って、そこが空き店舗などを全て買い取って、会社が商店街を運営するというのをやって成功している街があるというのをどこか新聞で読んだんですけども、そういった新しいやり方もあると僕は思います。

[知事]

そうですね。中々売らないんですよ、先祖伝来の土地だから。昔からの、昔ながらの古い商店ですからね。そして売るインセンティブもないわけでしょう。困っていないんだから売らないんだよね。だから家賃を下げてくださいと言っても下げないわけです。別に借りてもらわなくていいやと。裏に駐車場があって、それでその収入でそこそこ食っていけるんだということでしょう。だから、まあどこの町もそうですが、中心街の空き店舗という

のは中々有効に新しい商業主が入ってきて活用されるということがないんですよね。それが一番の制約じゃないかという気がしますね。

よつびし総研では色々町づくりのためのいろんなイベントだとか、そういうことをやってくれているんですよね。かなり地元の店主さんなんかと一緒にやっているわけでしょう。

[参加者]

そうですね。

お店をやっている時間帯ということで、第二土曜日に主にやっていたんですけども、やっぱりお店のほうに行ってしまう店主さんがもう大多数で、たまには居るんですけども、やはり本当に広くというのはちょっと難しいです。

僕たちも何回かチャレンジしたんですけども、やはりお店、留守している人がいないからだめだよとか、もっと時間を変えてくれればいいのか、そういうふうに言われてしまって、何とか僕たちのほうもアプローチしているんですけども、やっぱりちょっと難しいですね。

[参加者]

今、中心市街地の話なんですけれども、僕はちょっと視点を変えまして農業の話をしたいと思います。

現在山梨県は日本でも有数の果実王国、そして全国的に有名となっております。また、その点で果実というのは、山梨県でも富士山に次ぐ観光資源の一つであると私は思っております。

しかし、現状は農家の後継者不足が進んでおりまして、果実王国としての地位も危うくなってきております。

私は日本一のぶどうの里、勝沼に住んでいるんですけども、その勝沼でも周囲を見渡しますと農家の人々はほとんどお年寄りばっかなんです。農家のルーキーという人もいるんですけども、その方々も30代近いんで、あと何十年後かには、このぶどう畑の景観はどうなってしまうんだと、正直心配しているんです。

この後継者不足という問題を解消するために農業の楽しさ、そして大切さ、素晴らしさを小さい頃から学ばせるために、小中学校で総合学習が今ありますので、総合学習の一環として農業体験学習というのを積極的に取り入れたらどうでしょうか。

例えば現在、僕が行っていました勝沼中学校では、年に1回ジベレリン処理実習というのを実施しております。みんなこの実習によって農業の大切さ、そして農家の人々がどんな仕事をしているのか、そして物を作ることはどれだけ楽しいかを学ぶことができたんですね。

もし私が知事でしたら、このような実習を勝沼中学校だけではなくて少しでも多くの小中学校に取り入れて、農家の後継者不足に少しでも歯止めを掛けられればなというふうにするんですけども、知事は、後継者不足の問題に対してどう取り組みますか。

[知事]

これはしかし考え方はあなたと全く同じですね。私も非常に山梨の農業には危機感を持っています。

山梨のももとかぶどうの農家というのは、すごい栽培技術を持っているんです。しかし大体平均的な年齢はもう65を超えているんじゃないでしょうかね。したがって、あと10年、15年後にはもうこれは足腰立たなくなってきましたから、当然リタイアしていくということになりますね。

一方で、じゃあそういう農家、特に専業農家に後継者がいるかといったら大体3割もいないんですよ。そうするとそれはどうなるかというと、結局遊休農地になるわけですね。今でも山梨というのは遊休農地の割合が全国でも長崎県に次いで2番目に高いんですね。結局遊休農地がどんどん広がって、ちょうどガン細胞が広がるように、今一面のぶどう畑であり、もも畑であるんですが、段々遊休農地ができてきて、それが段々段々広がっていくと。結局、独特のもも畑、ぶどう畑の景観というのが15年、20年たったら失われてくるんじゃないかと私は非常にそういう心配を持つんです。

だから何とかこれを再生をしなければいけないと、こういうふうに思っているんですが、後継者不足、後継者対策というのは要は儲かる農業でなければだめなんです。儲からないからやらないんですよ。だから儲かる農業にするにはどうしたらいいかということですよ。

これは、今まで県の農業政策というのは余り販売のことを考えていないんですよ、生産のことばかり考えて、だから素晴らしいものなんだからその販路を拡大していく。

通常はこういうももならももは農協を通じて市場に出ているんですけども、市場じゃそんなに高く評価されないんですね。だから直接生産者に届けるような、いわゆるネット販売みたいなことをやるとか、そういう販売方法をもっと多様化していかなくちゃいけない。

消費者と生産者の間に直に取引が行われるような、そういう農業、そういう販売をしていくとか、あるいは輸出ですよ。

台湾へ持っていけば日本のももというのは、こっちでは300円のももが向こうで1,000円で売れるわけです。これは台湾というのは日本のももに対して、特に山梨のももに対して非常に素晴らしいものだという思いがありまして、台湾は飛行機は羽田空港からずっと台北との間に出ていましたから、羽田空港にかつては山梨のももなんかを売っているコーナーがあったんですよ。台湾の人はそれを買って持っていった。だから結構山梨のももというのは台湾で知られているんですね。

だからある人が台湾の果物屋にいったら、見たら、山梨のももというダンボール箱があって、その上にももが置いてあるわけです。「これは山梨のももか」と言ったら、「いや、このももは台湾のももだ。箱は山梨だ」何て言っていましたそうですけれども、だから輸出すればやっぱりかなり高い値段で売れるんですね。だから輸出を本格的にやろうかと思ひまして、そうやって販売を拡大、ルートを考えていかないといけないと思います。

それからやっぱり後継者確保というのを考えなければいけませんね。色々な、例えば東京辺りでもやはり農業をやりたいという人は大勢いますよね。だからそういう人に積極的に入ってこれる道を開くとか、あるいは企業型の農業ですね。

本当に良いももを一生懸命作るような技術の高い人というのは、販売だとかそういうこ

とは苦手なんですね。だからやっぱり企業型で、企業が入ってきて、企業がそういう技術者、高い技術を持った人を雇い、一方で販売については販売の専門家を雇うような形で、企業型農業に段々変えていくとか、そういうことを考えていかなければいけないですね。まあそんなことをやろうとしているんですけどもね。あなたの考え方は非常に一致していますね。

[参加者]

是非勝沼にも来て下さい。

[知事]

あそこは素晴らしいよね、本当ね。

[参加者]

僕は県外からなんですけども一応、山梨県庁を志望していまして、今年の夏にインターシップに参加させていただきました。

その時に政策について実際に僕の意見をどうですかと聞いてくれたりとか、考えてみて下さいということをやって、学生の話をちゃんと聞いてくれてすごい嬉しく思ったということがありました。

なんですけども、その反面、実は県庁内の組織体系というものがちょっと気になって思ったことがありました。

僕はゼミで、三重県の組織改革を勉強させていただいて、例えば財政課と人事課は権限が強くて、北川知事が、内部改革を始めるということを決めました。

具体的に言うと、財政課を廃止して予算調整課ということで事業予算の権限を各部局に回して、それで政策ごとに予算を提案するというものを作ったりとかして、中心、核となる権限をぶっ壊すというような発言をして、修正をしていました。

あとは例えば若手職員によるワーキンググループだったりとか、職員提案の実現に19億円予算を使ったりとかして、そういう若手の職員の考えをちゃんと聞いていて、縦の壁、横の壁、そういう両方の壁を取り払うという政策をしています。

それを勉強した上で山梨県庁に行かせていただいたんですけども、職員の方の話を聞いて思ったのは、職員一人ひとりの意識格差ですね、それをちょっと感じたのと、体系として財政課が強いというのをおっしゃっていて、それだとやっぱり提案があっても、いい考えがあっても、それが中々動きにくいんじゃないかと感じたんですが、その意識改革について知事はどう見ますか。

[知事]

確かにどこの県もそうなんですが、山梨県庁は特にそうですけど財政課と人事課が強いんですよ。これは余りいいことじゃないですね、確かにね。

だからそれを私は、できるだけ壊そうとしているんです。むしろ現場で一生懸命やっている人たちを登用したりとか、そういうことをできるだけやっていかないかんというふう

に思っていますし、職員の意識としてお役人というのは結局ことなかれ主義にどうしてもなるんですけども、そうじゃなくてやっぱり創意工夫を凝らして前向きに挑戦すると、そういう姿勢を評価するということを言っています、提案制度も今年は百数十件出ましたけれども、それを全部私が見て採点して、良いのを10件選んで、それはもう人事の面で優遇するというようなことを言ったりして、まあ今のそういう体制をできるだけ壊そうとしてはおります。

まあ三重県のように思い切ったことができるかどうかはともかくとして、余りまた極端にやり過ぎてもマイナスも出てくるし、例えば佐賀県などもそうですが、若い古川さんという知事ですけれども、もう財政課なんていうのはあるけれども、「財政課は何しているんですか」と言ったら、「もう計算しているだけです」と、「権限なんか何もありませんよ」と言って、そこまでやるのはまた問題でして、各部局に権限を与えるんですね。例えば予算をこれだけやる。その範囲で色々考えると、こういうことにするんですが、今度はそうするとそれぞれの部局が、それぞれ縦割り組織になってきて既得権を持ちちゃって、それが長く続くとまたこれは問題が起こるわけです。

だからやっぱり横で調整する組織というのはどうしても必要なんですね。財政課というのは全体を見て農政部、土木部、それぞれの部ですね、バランスよく見ながらどれに、知事の意向を聞きながらどこに予算を重点的に付けていくかということをやっていくわけなんです。

ただこれが強過ぎると各部の創意工夫というか、自発的な意欲がなくなってくる。だから非常にその兼ね合いが難しいですね。各部に任せると今度はみんなセクト主義になってきて、横の連絡がつかなくなるから、その辺のバランスですよ。

これは、唯一つのいい回答というのはあるわけじゃない。試行錯誤を常にやっていくしかないと思いますけどね。

是非県庁を目指してがんばって下さい。あなたが県庁に入ってひとつそういうことを打破してください。

[参加者]

今保育の勉強をしております、授業でも、あとお話クラブで外へ出た時にでも子育てのあり方とか支援の仕方についても学ぶことが多いんですけども、やっぱり少子化ということで日本でも子どもが少ない、山梨県内でももうどんどん子どもが減っているという現状がある中で、子どもが少ない理由の一つに子育ての環境が余り整っていないというのがあると思います。

企業や今職場で子育てへの育児休暇ですとか、支援についても段々なされてきているというのを聞んですけども、山梨の実態はというとやっぱりそうはいっていないなというふうに感じていて、父親が休暇を取りにくかったりとか、母親も子どもができたら辞めなきゃいけないという現状があるということも、すごい根強いなということを思っています。

そういう企業とか職場の子育て支援について、知事はどういう考えをお持ちなのか知りたいなと思います。

[知事]

そうですね、育児休暇を始めとして、子育て支援というのは一生懸命やっているつもりなんですけど、やっぱり企業のほうが一方で非常に経営がシビアになってきているから両立しないところがありますよね。

まあかなりは良くなってきているようには思いますけれどもね。

[参加者]

知事から企業や職場に対して、積極的な働き掛けというのは何か具体的にあるのでしょうか。

[知事]

それは色々な方法を通じてやっていて、例えば子育てについて配慮している企業については表彰してみたりとか、そういうことはかなりやっていますね。

しかし、男性の育児休暇などは取りにくいんですかね。

[参加者]

そう思います。

その部分をもっと山梨県内で力を入れていって下されば、周りからも多分いい意味で注目していただけると思いますし、また子どもも、もっともっと増えて、活性化にも繋がるんじゃないかなと感じました。

[知事]

大企業の製造工場などはずいぶんそういう意識は行き渡ってきていますけれども、やっぱり中小企業ですね。それは大きな課題だと思いますね。

[参加者]

是非取り組んでいただきたいと思います。

[参加者]

私はよつびし総研で「あるもの探し」ということで、甲府の中でいい所を見つけようってみんなで街を歩いたり、商工会議所の観光プロジェクトにも参加させていただいています。

甲府を国際観光という視点で歩いてみたんですけど、市内の地図とか案内表示、避難経路とかがとても見にくいということに気付きました。

また、1年次の時にバスで通っていたんですけども、その時よくお年寄りの方にバスの路線図の見方が見にくくて、どれに乗ったらいいのかということをよく聞かれたんです。

それで、ユニバーサルデザインを導入した町づくりというか、そういう地図や案内標識というものは必要ではないかということを感じました。

ユニバーサルデザインを導入すれば多文化共生や観光や福祉という3つの政策で大きな効果をもたらすことができるんじゃないかと思います。

[知事]

そうですね。

ユニバーサルデザインも去年から計画作りを進めているんですけども、とりあえずはやはりバリアフリーみたいなことから始めていきたい。

例えば歩道みたいなものの段差の解消、あるいは公共建築物の段差の解消とか、そういうバリアフリー的なものから始めていくしかないんですよね。

しかし地図だとか、そういうものについて確かにそういうこともやっていかなければいかんという感じはしますですね。

[参加者]

今、ユニバーサルデザインに県でも取り組み始めたということですけども、私も県外から山梨に来て一番思ったのが道路の整備状況の悪さなんです。

小さいお子さんが歩いている道でも段差があったりして、狭い道、車がどんどん走ってくる道というのは非常に危ないと思いますし、やっぱりお年寄りとかベビーカーを押すお母さんたちにとっても本当に暮らしにくい町だと思います。

先ほど乳母車を押して住民が歩いているような道であってほしいと知事はおっしゃっていたんですけども、知事は実際に乳母車を押して街を歩いたことはございますか。

[知事]

横浜では歩いたけれども、甲府ではないですね。

ただそういうことはよく聞きますよね。特に甲府の北のほうの住宅街なんかでも道が狭い、それで乳母車などを押していくと危なくて仕方がない、車が走ってくるし、歩道はないしですね、歩車道の分離がないでしょう。

そしてしかも端っこのほうというのは例えば側溝があったり段差があったりして、非常に歩きにくいということを言いますよね。

そういうユニバーサルデザインというか、きめ細かい気配りができていないですね、ということは感じますよ。

[参加者]

私も実際に乳母車を押して道を歩く機会があった時に気付いたんですけども、点字ブロックが逆に段差の原因になってしまっていて危ないということに気付いたんです。

例えば外国では点字ブロックの段差が上に凸状になっているのではなくて、車椅子の幅にあった溝になっているという仕組みの国があるんですよね。それで点字ブロックにもなるし、車椅子も通りやすいという道を設計している場所もあります。

あとは実際に住んでいる住民の人が一番どこが困っているというのが分かると思うので、そういう調査を行った上で、住民の人の意見を取り入れたデザインで道路を設計することが必要なと思います。

あとは甲府の道のマナーですね。東京では最近規制が始まっているんですけども、山

梨ではまだ大人の方も当たり前のようにたばこを持ったまま歩いているて、本当に子どもにとっても危ないと思いますし、そのゴミを当たり前前に捨てていくというので非常に景観にもよくないと思います。

やっぱり見た時に街が整っていると同時に、街の人のマナーがいい、道がきれいになっているというのは本当に印象が全然違ってきて、観光にも影響が出ると思うので、そういう点は気を付けるべきであると思うんです。

[知事]

甲府の街は私もあちこちの街を見てきたけども、どうしてもやっぱりそういうきめ細かい、正にユニバーサルデザインなんですけども、そういう配慮に欠けているところがありますね、確かにね。

国民体育大会を昭和61年、もう今から20年前ですよ、その前にずいぶん街を整備したわけですね。それっきり余り甲府の街の中をきめ細かく整備したということはないんですよ。だけどやっぱりおっしゃるように、そういう住民の視点から見た道路とか、そういう街の整備とかは必要ですよ。よく考えておきます。

[参加者]

僕は増穂町に住んでいて、例えばダイヤモンド富士のスポットがあったり、南アルプス市でいえばさくらんぼ、スモモといった果樹栽培をしている地域だったり、北岳とか、楡形山とか、そういった自然が豊かな地域で観光資源がいっぱいあると思うんですが、「道の駅しらね」の観光資源のPR不足を感じています。

中部横断道を利用した観光資源の利用とか、道の駅を拠点としたPRの強化などを県として、どのようにお考えでしょうか。

[知事]

そうですね。道の駅もずいぶんできてきて、ずいぶん流行っている、活性化している駅も多いですよ。一番やっぱり多いのは豊富ですかね。まあ白州の道の駅とか、それから雁坂峠の所の道の駅とか、いいんですけども、「道の駅しらね」は、もっと有効に使ったほうがいいと思いますね。そのとおりですね。

道の駅はかなり活用されていますよね、いわゆる農産物の販売所にしてみたりとか、そういうようなことでやっているでしょう。近所のお年寄りなんかが一生涯懸命そういうものをやっておられてね、まあ農業の活性化にも役立っているし、「道の駅しらね」はちょっと考え直さないとということだと思いますね。

[参加者]

看護学部3年生の後期はほとんど実習に出ていたんですけども、高齢者の方々が医療に求めるものというのはすごい大きいなというふうに感じました。

山梨県は、高齢者がとても多くて、元気なお年寄りもたくさんいる中で、いざ自分が具

合が悪くなった時に、求めている医療が受けられるのかという不安をすごく大きく抱えているなと感じました。

実際今山梨県も医師不足ですし、県立中央病院の救急救命も今ベッドのほうがほぼ満床に近い状況で、満床になって患者さんを受け入れられなくなってしまう可能性も本当に近い将来考えられると思うんです。

その中で知事のほうもチャレンジ山梨行動計画というものを策定されていて、その中にも医療について書かれていると思うんですけれども、それは書かれているだけで本当に実行できるのかということが私にはとても不安なことで、もちろん目標として掲げることは大事だと思うんですけれども、それが果たして実現できるのかどうかということを知事はどうお考えでしょうか。

[知事]

そうですね、チャレンジ山梨行動計画に数字の目標が書いてありまして、これは実現するように努力しないといかんと思っています。

かなり高い目標なものだから、全部実現できるかどうか分かりませんが、例えばお医者さんなどについてもこの2年間で80人ぐらいだったかな、増やすというふうにしていましてね。

やっぱり医療にお金が掛かるのは仕方がないことですね、これはやっぱり一番県民の安全・安心の一番の基本だと思いますよね。

だから中央病院なんか赤字なんですけれども、これは仕方がないですね。余り経営面のことを言って、何でもかんでも赤字にしなければいけないというような発想をすると、やっぱり医療の質が落ちてくるということが出てきたりするし、そもそもお医者さんが居着かなくなっちゃいますよね。

だからもちろん合理的な経営はしていかなければいけないわけけれども、同時にやっぱり掛かるお金は掛かるというふうに割り切っていかなきゃいけないと思いますね。そういうつもりであります。看護師の皆様方も是非山梨に居着いていただけるようにして欲しいんですけれども、東京に行かれる方が多くて、あなたは・・・。

[参加者]

私は山梨出身なので山梨で看護師、看護の職に就きたいと思っています。

[知事]

そうですね、ありがたいです。助産師も足りないから、場合によっては助産師もいいですよ。(笑い)期待していますから。

[参加者]

保育にもお金をかけていただきたいんですが。(笑い)
現状として変な話、保育士はお給料が低いんですね、そうするとどれだけ技術を持った方でも長くお仕事を続けていくにはやはりちょっと厳しい部分もあります。

また、保育は求められている部分も多いんですけども、それを実践する場所が少ないという。空きが出ないと募集が掛からないということもあるんで、そこを何とかしてもらいたいのと、保育士を必要とする場所というのは結構ありまして、ちょうど今日、私中央病院の小児科のほうに見学に行かせていただいたんですけども、そこでも保育士を本当は必要としているという話を聞きました。

看護師さんたちは医療の面でやらなきゃいけない部分がありまして、遊びを取り入れて子どもをリラックスさせたいんですけども、やっぱりそれよりも医療や命を優先してしまうために子どもに構ってあげられないという現状がありまして、そこに保育士がいれば遊びのプロですから子どもをリラックスさせてあげることもできるんですけども、やはり予算の問題でちょっと厳しいという話を聞きまして、求められているし、私たちはそこに入りたいと思っているのにそれができない現状があるというのがとても歯がゆいことだと思いました。

[知事]

なるほどね。

その入院している子どものために保育士を採用しているような病院というのはあるんでしょうかね。

[参加者]

県内では多分ないんですけど、東京のほうとかに行きますとやはりそういう保育士が実際に病院の中に入って、医療の面ではなく保育の面で貢献しているという話です。

[知事]

どこか保育所と提携して、定期的にな、常時いなくたって一日に1時間なら1時間とか、2時間なら2時間派遣してという形でもいいでしょうね。

[参加者]

ただ保育園のほうもいっぱいいっぱい、少ない人数で多い子どもを見ているので、先生方にも結構余裕がないことが多いようです。

[知事]

なるほど、そういうことなんですね。分かりました。

[参加者]

国際政策学部3年です。

いい街をつくらうと考える時に大切なのは、街をどんな人たちがつくっていくかということを考えることがすごく大事だと思っています。これから山梨はどんな人たちが山梨をつくっていくだろうと考えた時に、絶対に忘れてはいけないのが外国籍の住民の方だと思っています。

私たちのサークルは外国籍児童、生徒のための学習支援教室というのを学校で開いています。その子たちと接していると自分の元々いた国のことを嬉しそうに話す子どもたちを見ると、あっ、こういうふうに国際的な子どもたちが山梨をつくっていくと思うとすごく楽しみで、だけどその反面学校に行っても言葉が分からなくてしっかり勉強できないという話を聞くと、これからこの子たちがつくる山梨もどうなっていくのかなとすごく心配でもあります。

毎年どんどん全国で増えて、山梨でもすごく増えているんですが、そういう外国籍住民、特に子どもたちに対する支援のことはどんなふうにお考えですか。

それと、是非知事をお願いがあるんですけども、やはり現場を見ていただきたいという気持ちがすごく強くありまして、一度、お忙しいのは分かるんですけど、一度視察というか、見学に来ていただけないかと思っています。

[知事]

ここでやっているわけですね。そうですか、分かりました。

どうですか、その子どもさんたちをそうやって教えていて、やっぱり言葉が不十分で中々ついていけない、しかしそうは言っても普通はみんな小学校、中学校に行っているわけでしょう。どういうふうに。

[参加者]

はい。全然日本語が分からない状態で普通の日本人の子どもたちがいる学校に入って、本当に困っている子どもたちがたくさんいます。その現場では、やはりそういう子どもたちだけじゃなくて教える先生方もすごく苦労なさっていると聞いています。

やっぱり子どもたちにとっての1年とか2年って本当に大きいと思うので、1年間ブランクが空いてしまったり、勉強が遅れてしまったりすると、どんどん子どもたちの将来に大きく影響してくると思うので・・・

[知事]

どうしたらいいのかな。難しいですね。

[参加者]

やっぱり今までにもユニバーサルデザインの話とかもありましたけど、いろんな人にとって住みやすい町づくりというと、日本人だけでなく外国の方々にもそれから障害を持った方にも高齢の方にも若い人にも、そういった多様な視点で見ていただけたら。

[知事]

群馬県の大泉町は大体1割以上が外国人ですよ。ああいう所になると当然のことながら先生の中にもそういうポルトガル語とかそういうものを話せる先生がきっと何人かいるんでしょうね。

これは中々難しい、これはよく考えてみます。

[参加者]

福祉の勉強をさせていただいています。

この間、社会福祉士になるための実習に、福祉事務所のほうに行かせてもらったんですけど、山梨県は生活保護の受給率が余り高くないと聞いたんですけど、やはり現場に出て、実際の生の生活を見ていると本当に生活できているのかと疑問になるぐらいのぎりぎりのラインの生活をされている方もいっぱいみえました。

そういった中でも生保は受給していないとか、隣近所の目が気になって受給できなかったりとか、断られてしまったりとかという現状があって、そういった貧困層と呼ばれるところに対しての政策みたいなのはどのようにお考えなのかなというのを聞いてみたかったんですが。

[知事]

生活保護の受給率というのは全国でも山梨が一番低いんですよ。やっぱりあなたがちょっとおっしゃったように山梨県人は見えっぱりだということが一つあるんですね。それと割と人の目を気にするんですね、人間関係が濃密ですから。だから生活保護を受けているなんていうと一人前じゃないぐらいに思われることだから、そういう人の目が嫌なもんだから見えっぱりでもありますから我慢しちゃうんですよ。

まあそれは良いのか悪いのかよく分かりませんが、本当にしかしそれで受ける必要がある人が受けていないとすればそれは問題だと思いますね。

[参加者]

私は北杜市出身で、武川米を食べて育ってまして、県外に憧れたりしたんですけども、やっぱり山梨が好きで残ってしまっているんです。

いつも思うのは北杜市はお米もおいしいし環境も整っているし、とても魅力があると思うんですけど、県の人は何かPRが下手っていうか、もっとうまく自然食とか、玄米とか最近流行っているそういうものを生かして、もう少しアピールできると思うんですね。清里とか、いい場所もあるんですけど、うまく今の人の動きを読みとって呼び込む力がちょっと足りないかなと思います。

今日の魅力ある山梨を模索するというのも、知事がどういう山梨にしたいのかというのが二十歳の私としては伝わってこないっていうか、もう少し分かりやすく言っていただけると嬉しいなという気持ちがあります。

[知事]

端的に言うと、県外の若い人が山梨に憧れて是非山梨に行ってみたい、あるいは山梨に暮らしてみたい、そう思われるような山梨県であればいいなと思いますね。

例えばスイスに例えるのはどうかと思いますが、スイスというのはやっぱりみんな憧れますよね、世界中の人たちがね、あそこには1回行ってみたいとか、そしてお金持ちになったらあそこに住んでみたいとか、そういうふうな県であればいいですね。

北杜市は、非常に魅力のある市だと思いますね。

だから東京でリタイアした人がずいぶん大勢住むようになってきていますよね。ちょうど距離的にもいいし、最近では温かくなってきたし、南斜面だし、富士山がきれいに見えるし、だからかなり著名人でこんな人がというような人が住んでいますよね。

多分北杜市は関東近辺で言うと、東京である程度成功した人が住むには最高な所の一つでしょうね、そう思いますね。富士河口湖町辺りもかなりそういう人が住むようになってきていますね。

[参加者]

知事は若者が集まるような魅力ある山梨を目指しているとおっしゃいましたが、高齢者や障害者にも目を向けた県にしたらどうかと思います。

高齢者とか障害者というのはやっぱり旅したいけど交通機関の問題や、そんな遠くまでは行けないと思うんですよ。だから山梨にはやっぱり温泉病院とか、そういう温泉の使った施設とかあるんで、それで一泊二日でも東京から2時間ぐらいで来れるんで、週末に遊びに来れるというか、泊まれるような、そういう泊まれる宿泊施設等を造っていったら人が集まると自分は考えます。

[知事]

なるほどね。

[参加者]

車の利用量が山梨だと広い範囲で車が必要という人がものすごい多いんですけども、甲府の中心市街地のように細くて入り組んでいて、車がむしろ不便になるような場所でも車は無理やり入ってきていて危ない状況が生まれているので、公共の交通機関、バスとかを増やして、狭い場所では自転車の貸出などを行って安全な中心街をつくる、広い地域で車が必要な地域などに公共のバスとかを配置して、バランスよくその公共の機関が配置されるようにしたほうが車の利用というのも、もうちょっと安全になるかなと思うのと。

あと山梨県は交通ルールが非常に甘い。私も群馬県出身でワースト1位なので余り言えないんですけども、歩行者が横断歩道を渡っていても車がすごい勢いで突っ込んできて、本当に危ない状況というのがよくあるので、そういった状況の規制がちょっと足りないんじゃないかなと思います。

[知事]

マナーが低いんですかね。

確かにバスのネットワークをもうちょっと充実したらどうかという声がうんとあるんですよ。一度それは私どもも検討して、本気でやらなければいけないというふうに思ったりするんですけども、やっぱり今までは市町村とバス会社が契約をしましてね、いわゆる福祉バスというような、お年寄り向けのバスのネットワークをそれぞれ市町村ごとにやっ

ているわけですね。

そして山梨交通バスなんかは段々段々路線が減ってきているわけですね。もう1回全部山梨県全体のバスのネットワークみたいなものを見直して、県と市町村とバス会社が一緒になって一番いいネットワークというのを考えていかなければいけないというふうに思っていますけれどもね。

まだ中々そこまで手が回らなくてできないんですけれども・・・。

モラルが低いというのは、群馬県も余りモラルが高くなかったみたいですね。だけど日銀などの分析によると群馬県が一番景気がいいと言っていますね、前橋支店かな。

[参加者]

古い建物が中心街に残っているということを色々調査をしていく中で発見したんですが、その中の一つは県議会議事堂なんです。あれは昭和初期に建てられて、中に入っても歴史的に趣がある、とても素晴らしい建物だな、すごくいい場所だなと思ったんです。

議会開会中に議員向けにコンサートをなさっていますよね、僕は思うんですけれども、若い人の政治離れというのが最近よく叫ばれていますけれども、若い人以外でも議会を見に行く人は後援会の人たちだったり、余り一般の人が行かないなというイメージを持っているんで、もっと政治に関心を向けるためにも、今行っている議員向けのコンサートをもしできましたら議会が開会していない時に一般市民の方にも公開したらどうでしょうか。

[知事]

椅子は38しかありませんね、議員さんの椅子で。上のほうが150ぐらいかな。

[参加者]

狭いんですけれども、1時間ぐらいコンサートを聴くぐらいでしたらいいと思いますし、コンサートだけじゃなくて、もうちょっと一般に広く開放してもいいかなと思います。

[知事]

議事堂も中々風情のある建物ですけれども、例えば足の弱い方なんかがお出でになった時にもエレベーターはないし、大変なんですよ。

だからあれも中の改修をいつかの段階でしなくちゃならないと思いますね。そういう時にはやっぱりもうちょっとオープンな、県民がだれでも気楽に入ってこれるような、そういうものにしていく必要があると思いますね。

確かにコンサートに貸し出したりとか、そういうこともいいですね。これはやっぱりそういうオープンな県庁でなければいけないと思いますね。県民が普通に自分のものとして使えるような、あなたのアイデアはよく考えてみたいと思います。

[参加者]

僕は県庁の方々と結構交流があってお話しすることもあるんですが、横内知事になってから政策提案を職員の方がどんどんやっていますが、そういうトップダウンじゃなくてボ

トムアップの風潮をもっと県庁の中でやってほしいと思うんです。

県庁の中で現場の市民と接するのはやっぱり現場の人ですから、その人たちが県庁の中でボトムアップができないんだったら、それはもう本当に現場の人は意味ないじゃないですか、そういう人たちが意見が言いやすいとか、そういう風潮になれば僕たちも意見が言いやすいですし、それが形になればもっと住みたい町になりますし、やっぱりこういうふうに自分の声がこういう形になったらとか、そういう実感が持てるような町づくりだとか、そういう県政をしてほしいと常に思っております。

[司会]

時間もオーバーしておりますので、ここで知事からまとめをおねがいたします。

[知事]

そうですね、ありがとうございました、あなたのおっしゃるとおりだと思いますね。

皆さん方がそれぞれボランティア活動などに熱心に参加していただき、ありがとうございます。思っているんですけども。

今もおっしゃったように、学生の皆さんはもちろんのこと、いろんな県民が自らいろんなボランティア活動に参加して、そしてその町づくりを積極的にやっていただくと、そういうものを県がバックアップしていくような、そういう姿になるのが一番理想なんです。

そのためにはやっぱり県庁も現場で働いている人たちというものを大事にしていかなければいけないという気持ちを私は持っているんですけどね。なるべく現場で働いている人たちが働きやすいような、そういう仕組みを作っていかなければいかん。

今の県庁というのは、何か現場にいったん出ちゃうと何かもう島流しになっちゃって、もう俺は出世できないんだというような感じを持つのがいてね、とんでもないことですね。

やっぱりこれは財政課とか人事課というのはそれはまあそれでいいんだけど、そういうのがまた現場に出て行ったり、今度は現場の人がまたそういう中枢に戻ってきたりとかですね、そういう交流がいつもなければいけないと思いますね。

それはともかくとして、今日はいろんなご意見を聞かせていただきありがとうございました。

私の一つの夢として、山梨というのはさっきも言ったように若い人に魅力がないということと言われるもんですから、大学は幾つもたくさんあるわけですし、そういうその大学生の皆さんがいろんな場で街づくり、地域づくりに参画をしていただければありがたいなというふうに思っております。皆さん方がそういうお気持ちをお持ちならばそれを県としてできるだけバックアップしていこうかというふうに思っているんですよ。

まあ具体的にどういうことをしたらいいか分かりませんが、よつびし総研なんかのいろんな活動にもごく少額ではありますが補助をしたりとか、そういうことをやっておりますが、まあ皆さんがおやりになることですからそんなにお金は掛かりませんので、是非地域づくりのためにいろんな活動をやっていただくと、そのことをまた県庁に提案をしていただくと、そうすれば我々としてもできるだけ援助はさせてもらいたいとい

うふうに思っているんですね。

そんなことで、特に県立大学の皆さん方というのは県民の税金でつくられた大学で勉強してくれているわけですから、多少は県民のことも考えてもらって、そして山梨県を良くするためにほかの大学以上、是非活動していただければありがたいなというふうに思います。

それでこの半分ぐらいの方が県外から来ていただいているというのは、これは本当に素晴らしいことで心強いことで嬉しく思っております。そういう皆さんが大学を卒業しても、是非この山梨に就職して、山梨で活躍をしていただければなと思いますね。また皆さん方がそうやっていただけるような環境をつくっていくのが、また県庁の役割だというふうに思っております。

色々まだ聞きたいこともたくさんありますし、皆さん方も言い足りないことがたくさんあると思うんですけども、時間が来ましたのでこのぐらいにしておきますが、また時々お会いしましょう。それから何かもし、ちょっと知事と話をしたいというようなことがあれば、私も時間を作りますから遠慮なくまたおっしゃっていただきたいと思います。

皆さん、今日は本当にありがとうございました。

[司会]

今日はありがとうございました。